

介護福祉士の現状と介護福祉士会の役割に関する研究 -A県介護福祉士会の入会状況と介護福祉士の労働条件及び仕事の悩みに関する調査-

新田 恵美 東洋大学大学院 ライフデザイン学研究所 ヒューマンライフ学専攻博士後期課程

キーワード 介護福祉士、介護福祉士会、職能団体

I | 研究背景

社会福祉士及び介護福祉士法の施行から30年以上が経過し、介護福祉士は国家資格としての確固たる地位を築き、国民の介護福祉を支える中核的な専門職として重要な役割を担っている。しかし、介護福祉士は依然として厳しい労働環境や処遇に関する諸課題に直面しており、職務上の倫理的葛藤や責任の増大により、負担がさらに重くなっているのが現状である。こうした状況を背景に、介護福祉士の職能を支える団体として公益社団法人日本介護福祉士会が1994年に設立され、2013年には公益法人としての認定を受けた。同会は、介護福祉士の資質向上、労働環境の改善、そしてキャリア支援を目的とした様々な活動を展開している。しかし、2024年3月末時点での日本介護福祉士会の正会員数は36,323名であり、介護福祉士の登録者総数1,941,748名¹⁾に対する入会率はわずか1.87%にとどまっている。さらに、本稿の対象地域であるA県では、2024年4月末時点で登録者数25,917名²⁾に対し、A県介護福祉士会の会員数は347名、入会率は1.33%と、全国平均よりも低い水準にある。

介護福祉士会への入会が進まない背景として、山内ら(山内ら2011, 2012)が指摘する「資格取得後の関心の低下や会の活動に対する認知不足」が挙げられる。また、介護福祉士の労働環境の悪化は離職率にも影響を与えており、尾形ら(尾形ら2018: 255-262)は「『人手不足』や『賃金の低さ』、『身体的負担』を労働環境の主要な課題」として

報告している。さらに、石川ら(石川ら2021: 51-63)は「介護福祉士会が労働環境の改善や介護福祉士の声を反映するためにどのように貢献できるか」を問い、2024年の「令和5年度介護労働実態調査」(介護労働安定センター2024)では、「88.0%の介護労働者が何らかの悩みや不満を抱えている」と報告され、「特に人手不足や仕事内容に対する賃金の低さ、身体的負担が顕著な問題」とされている。しかしながら、これまでの研究では、介護福祉士が抱えるこうした問題に対する職能団体としての介護福祉士会の役割や、具体的な活動のあり方については十分に議論されていない。そこで、本研究は、職能団体としての介護福祉士会の果たすべき役割や活動のあり方を詳細に検討することを目的とした。そのために、A県における介護福祉士会の入会状況や労働条件、仕事の悩みを対象に、自記式調査紙による横断的調査を実施した。特に、介護福祉士の勤務年数、資格取得ルート、勤務種別といった多様なパラメータに基づき、入会に至らない理由や退会の背景を詳細に分析し、今後の介護福祉士会の活動や入会促進に向けた課題を提示した。

II | 研究方法

1. 調査対象と調査方法

本研究の調査対象は、A県内の福祉施設および福祉事業所で勤務する介護福祉士とした。A県内の30カ所の福祉施設および福祉事業所に勤務する介護福祉士729名に対して調査を依頼し、566

通の回答を得た。有効回収率は77.6%であった。

調査方法は、無記名の自記式調査紙を用いた。調査紙は福祉施設および事業所の介護福祉士に配布し、回答後に同封の封筒で封緘してもらい、各施設および事業所ごとにまとめて返信用封筒で郵送し回収を行った。調査期間は2023年5月20日から2023年6月10日である。

2. 調査内容

本調査内容は、「対象者の属性」、「介護福祉士会への入会状況」、「労働条件や仕事等の悩み」、「研修及び人材育成事業等への興味関心」の4項目で構成し、各項目について自記式調査紙により無記名で回答を求めた。本稿では、調査内容のうち「対象者の属性」、「介護福祉士会への入会状況」、「労働条件や仕事等の悩み」の3項目に対して詳細に検討を行った。

①対象者の属性

「性別」、「年齢」、「居住地」、「介護福祉士の資格取得ルート」、「職務年数」、「勤務先の種別」、「職務」などについて調査した。

②介護福祉士会への入会状況

(a)介護福祉士会の入会の有無、(b)介護福祉士会の入会有無の理由、について調査した。

(a)では「入会している」、「入会していない」、「以前入会していたが退会」の選択肢を設定し、(b)では「介護福祉士会の入会の有無に関する理由について教えてください」の質問に対し、(a)の回答に応じた複数の選択肢を提供した。選択肢は「入会している」が13項目、「入会していない」が8項目の複数回答形式とし、「以前入会していたが退会」の理由は記述形式で回答を求めた。

③労働条件や仕事等の悩み

(a)介護福祉士の労働条件や仕事等の悩み、について調査した。

(a)について「勤務先での労働条件・仕事の悩み等について教えてください」の質問に対し、複数回答形式で14項目の選択肢を提供し、回答を求めた。

調査項目は研究者によるエキスパートレビューを経て、表現や語句の修正を行い、内容的妥当性の確保に努め調査項目を精査した。

3. 倫理的配慮

本調査は、自記式調査紙を用いた無記名による郵送調査として実施し、調査項目は回答者個人が特定されない内容で構成されている。倫理的配慮の方法として、調査依頼文には下記の点を記載した。(1)調査目的・方法、(2)個人情報保護、(3)データの厳重保管、(4)調査結果を目的外使用しない、(5)回答の自由性。また、質問紙の回答は返送をもって同意とみなした。調査データは、一元的に管理した。なお、本調査実施に際しては、東洋大学福祉社会デザイン学部研究等倫理委員会の承認を受けて実施した(F2023-006S)。

4. 分析方法

「対象者の属性」、「介護福祉士会への入会状況」、「介護福祉士の労働条件や仕事等の悩み」について単純集計を行った。次に、「介護福祉士会への入会状況」、「介護福祉士の労働条件や仕事等の悩み」に着目し回答分布を確認した。その後、対象者の属性と抽出された各因子とのクロス集計および列比率の比較(2群差の検定Bonferroniの修正)を実施した。有意水準は5%とし、データの集計と統計解析はSPSS Ver.29for Windowsを使用した。

Ⅲ | 結果

1. 対象者の属性(表1)

調査対象者の性別構成は、「男性」22.3%、「女性」70.1%、「無回答」7.6%であった。年齢層は、「30代」が23.5%、「40代」が29.2%、「50代」が23.3%で、全体の76.0%が「30代」から「50代」に属していた。資格取得ルートは、「実務経験」が60.2%で最多、次いで「養成施設」が23.3%、「福祉系高校」が8.8%であった。勤務先種別は、「入所型」が62.3%、「通所・訪問型」が27.1%であり、入所型の内訳では「介護老人福祉施設」29.2%、「介護老人保健施設」21.4%、「障害者支援施設」12.9%であった。職務年数は、「5年以上10年未満」が最も多く28.1%、次いで「10年以上15年未満」が18.6%であった。

表1 対象者の属性

		度数(人)	%
性別	男性	126	22.3%
	女性	397	70.1%
	無回答	43	7.6%
	合計	566	100.0%
年齢層	10代	15	2.7%
	20代	67	11.8%
	30代	133	23.5%
	40代	165	29.2%
	50代	132	23.3%
	60代以上	54	9.5%
	合計	566	100.0%
介護福祉士の資格取得ルート	養成施設	132	23.3%
	2年課程	(117)	(20.7%)
	4年課程	(8)	(1.4%)
	1年課程	(7)	(1.2%)
	福祉系高校	50	8.8%
	実務経験	341	60.2%
	経済連携協定(EPA)	1	0.2%
	その他	12	2.1%
	無回答	30	5.3%
合計	(566)	100.0%	
勤務先の種類	入所型	359	62.3%
	介護老人福祉施設(特養)	(165)	(29.2%)
	介護老人保健施設	(121)	(21.4%)
	障害者支援施設	(73)	(12.9%)
	通所・訪問型	156	27.1%
	デイサービス(通所介護・生活介護)	(65)	(11.5%)
	グループホーム	(46)	(8.1%)
	小規模多機能型居宅介護	(20)	(3.5%)
	訪問介護事業所	(15)	(2.7%)
	通所リハビリテーション	(10)	(1.8%)
	その他	61	10.6%
	合計	576*	100.0%
	勤務年数	1年未満	26
1年以上3年未満		60	10.6%
3年以上5年未満		53	9.4%
5年以上10年未満		159	28.1%
10年以上15年未満		105	18.6%
15年以上20年未満		89	15.7%
20年以上		73	12.9%
無回答		1	0.2%
合計		566	100.0%

※非常勤勤務も含まれるため重複回答あり

2. 介護福祉士会への入会状況(表2-1)

調査結果より、A県における介護福祉士の入会状況は【入会していない】が83.2%、【入会している】が11.3%、【以前入会していたが退会した】が2.5%であった。

①介護福祉士会に入会していない(表2-1, 2-2, 2-3, 3-1, 3-2, 3-3)

介護福祉士会に【入会していない】介護福祉士の年齢層との関係では、「20代」および「30代」のいずれも91.0%と高い割合を示した。一方、「60

代以上」では68.5%と有意に低く、年齢層により差がみられた。

また、勤務年数との関係では「5年以上10年未満」の介護福祉士の88.7%が未入会であり、「20年以上」の介護福祉士の67.1%と比較しても有意な差が示された。

資格取得ルート別においては、「福祉系高校」の介護福祉士が96.0%と最も高い未入会率を示し、「養成施設」の80.6%との有意差が確認された。

さらに、【入会していない理由】は「介護福祉士会を知らない」と回答した者が58.3%と最も高く、特に「福祉系高校」出身の介護福祉士の71.1%が介護福祉士会を認知していなかった。

年齢層別にみると、【入会していない】割合が最も高い「20代」と「30代」では、「介護福祉士会を知らない」と回答した割合がそれぞれ66.0%と60.7%であった。また、「入会のメリットを感じない」とする理由も多くみられ「20代」が24.5%、「30代」が21.5%に達していた(表3-3)。

「介護福祉士会に入会していない理由」を見ると、「勤務年数20年以上」の介護福祉士の「介護福祉士会を知らない」という回答が35.0%である。このことから、65%が介護福祉士会を認知していることがわかる。この認知度は、勤務年数が「1年以上3年未満」および「3年以上5年未満」と比較して有意な差がみられた。一方で、「20年以上」において認知度は高いものの、「入会のメリットを感じない」と回答した割合が50.0%と有意に高いことも明らかになった。

②介護福祉士会に入会している(表2-1, 2-2, 4)

介護福祉士会に【入会している】年齢層では、「60代」が20.4%と最も高い割合を示し、勤務年数別では「20年以上」が19.2%と多く、入会者の年齢層および勤務年数が比較的長い傾向がみられた。また、入会理由として「介護福祉士としてのスキルアップのため」を挙げた者が32.3%で最も多かった。さらに、「有意義な研修に期待しているた

表2-1 介護福祉士会への入会状況：年齢層

入会状況	全体 (566)	年齢層					
		10代(15) _(A)	20代(67) _(B)	30代(133) _(C)	40代(165) _(D)	50代(132) _(E)	60代以上(54) _(F)
入会している	11.3% (64)	13.3% (2)	9.0% (6)	6.8% (9)	14.5% (24)	9.1% (12)	20.4% (11)
入会していない	83.2% (471)	80.0% (12)	91.0% (61) _F	91.0% (121) _{DF}	78.2% (129)	84.1% (111)	68.5% (37)
以前入会していたが退会	2.5% (14)	0.0% (0)	0.0% (0)	1.5% (2)	3.0% (5)	1.5% (2)	9.3% (5)

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A～F)の有意水準:0.05
(注)無回答は表記しない

表2-2 介護福祉士会への入会状況：勤務年数

入会状況	勤務年数						
	1年未満 (26) _(A)	1年以上3年 未満(60) _(B)	3年以上5年 未満(53) _(C)	5年以上10年 未満(159) _(D)	10年以上15年 未満(105) _(E)	15年以上20年 未満(89) _(F)	20年以上 (73) _(G)
入会している	3.8% (1)	10.0% (6)	7.5% (4)	9.4% (15)	12.4% (13)	11.2% (10)	19.2% (14)
入会していない	96.2% (25)	83.3% (50)	84.9% (45)	88.7% (141) _G	82.9% (87)	83.1% (74)	67.1% (49)
以前入会していたが退会	0.0% (0)	1.7% (1)	3.8% (2)	0.6% (1)	1.0% (1)	2.2% (2)	9.6% (7) _D

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A～G)の有意水準:0.05
(注)無回答は表記しない

表2-3 介護福祉士会への入会状況：資格取得ルート

入会状況	資格取得ルート			
	養成施設 (129) _(A)	福祉系高校 (50) _(B)	実務経験 (329) _(C)	その他 (12) _(D)
入会している	14.0% (18)	2.0% (1)	11.9% (39)	16.7% (2)
入会していない	80.6% (104)	96.0% (48) _A	86.6% (285)	83.3% (10)
以前入会していたが退会	5.4% (7)	2.0% (1)	1.5% (5)	0.0% (0)

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A～D)の有意水準:0.05
(注)無回答は表記しない

表3-1 介護福祉士会に入会していない理由(複数回答)：資格取得ルート

理由	全体 (412)	資格取得ルート					
		養成施設			福祉系高校 (45) _(D)	実務経験 (250) _(E)	その他 (9) _(F)
		(2年課程) (79) _(A)	(4年課程) (4) _(B)	(1年課程) (5) _(C)			
介護福祉士会を知らない	58.3% (240)	49.4% (39)	50.0% (2)	60.0% (3)	71.1% (32)	57.2% (143)	77.8% (7)
入会の仕方が分からない	10.7% (44)	7.6% (6)	0.0% (0)	20.0% (1)	8.9% (4)	10.8% (27)	11.1% (1)
介護福祉士の事業活動が分からない	19.9% (82)	20.3% (16)	25.0% (1)	20.0% (1)	13.3% (6)	20.0% (50)	22.2% (2)
事業活動に魅力を感じない	4.4% (18)	7.6% (6)	0.0% (0)	20.0% (1)	2.2% (1)	3.6% (9)	0.0% (0)
研修や講座に魅力を感じない	1.7% (7)	3.8% (3)	0.0% (0)	0.0% (0)	2.2% (1)	0.8% (2)	0.0% (0)
入会のメリットを感じない	25.2% (104)	38.0% (30)	25.0% (1)	0.0% (0)	20.0% (9)	24.0% (60)	44.4% (4)
会費が高い	10.9% (45)	16.5% (13)	0.0% (0)	20.0% (1)	8.9% (4)	8.8% (22)	11.1% (1)
その他	4.1% (17)	5.1% (4)	25.0% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	4.8% (12)	0.0% (0)

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A～F)の有意水準:0.05
(注)無回答は表記しない

表3-2 介護福祉士会に入会していない理由(複数回答): 勤務年数

理由	勤務年数						
	1年未満 (23) _(A)	1年以上3年 未満(44) _(B)	3年以上5年 未満(41) _(C)	5年以上10年 未満(125) _(D)	10年以上15年 未満(73) _(E)	15年以上20年 未満(66) _(F)	20年以上 (40) _(G)
介護福祉士会を知らない	69.6% (16)	68.2% (30) _G	70.7% (29) _G	56.0% (70)	60.3% (44)	56.1% (37)	35.0% (14)
入会の仕方が分からない	21.7% (5) _E	9.1% (4)	14.6% (6)	14.4% (18)	2.7% (2)	10.6% (7)	5.0% (2)
介護福祉士の事業活動が分からない	13.0% (3)	20.5% (9)	31.7% (13)	16.8% (21)	17.8% (13)	24.2% (16)	17.5% (7)
事業活動に魅力を感じない	4.3% (1)	2.3% (1)	7.3% (3)	1.6% (2)	8.2% (6)	3.0% (2)	7.5% (3)
研修や講座に魅力を感じない	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	2.4% (3)	5.5% (4)	0.0% (0)	0.0% (0)
入会のメリットを感じない	4.3% (1)	15.9% (7)	14.6% (6)	32.0% (40)	24.7% (18)	18.2% (12)	50.0% (20) _{ABCF}
会費が高い	8.7% (2)	9.1% (4)	4.9% (2)	11.2% (14)	11.0% (8)	13.6% (9)	15.0% (6)
その他	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	4.8% (6)	6.8% (5)	4.5% (3)	7.5% (3)

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A~G)の有意水準:0.05
(注) 無回答は表記しない

表3-3 介護福祉士会に入会していない理由(複数回答): 年齢層

理由	年齢層					
	10代(12) _(A)	20代(53) _(B)	30代(107) _(C)	40代(112) _(D)	50代(97) _(E)	60代(31) _(F)
介護福祉士会を知らない	83.3% (10)	66.0% (35)	60.7% (65)	55.4% (62)	53.6% (52)	51.6% (16)
入会の仕方が分からない	8.3% (1)	11.3% (6)	11.2% (12)	7.1% (8)	13.4% (13)	12.9% (4)
介護福祉士の事業活動が分からない	8.3% (1)	13.2% (7)	18.7% (20)	17.9% (20)	26.8% (26)	25.8% (8)
事業活動に魅力を感じない	0.0% (0)	3.8% (2)	3.7% (4)	5.4% (6)	3.1% (3)	9.7% (3)
研修や講座に魅力を感じない	0.0% (0)	1.9% (1)	1.9% (2)	1.8% (2)	1.0% (1)	3.2% (1)
入会のメリットを感じない	16.7% (2)	24.5% (13)	21.5% (23)	30.4% (34)	26.8% (26)	19.4% (6)
会費が高い	8.7% (1)	3.8% (2)	10.3% (11)	16.1% (18)	8.2% (8)	16.1% (5)
その他	0.0% (0)	1.9% (1)	3.7% (4)	3.6% (4)	5.2% (5)	9.7% (3)

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A~G)の有意水準:0.05
(注) 無回答は表記しない

表4 介護福祉士会に入会している理由(複数回答): 資格取得ルート

理由	全体(62)	資格取得ルート			
		養成施設(16) _(A)	福祉系高校(1) _(B)	実務経験(39) _(C)	その他(2) _(D)
研修会に参加するため	21.0% (13)	12.5% (2)	0.0% (0)	20.5% (8)	0.0% (0)
有意義な研修に期待しているため	9.7% (6)	18.8% (3) _C	100.0% (1)	2.6% (1)	0.0% (0)
介護福祉士としての質の確保のため	24.2% (15)	18.8% (3)	0.0% (0)	23.1% (9)	50.0% (1)
介護福祉士としてのスキルアップのため	32.3% (20)	18.8% (3)	100.0% (1)	38.5% (15)	0.0% (0)
悩みを相談できる場の確保	6.5% (4)	0.0% (0)	0.0% (0)	10.3% (4)	0.0% (0)
研修スタッフとして参加するため	14.5% (9)	0.0% (0)	0.0% (0)	23.1% (9)	0.0% (0)
会費が妥当なため	1.6% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	2.6% (1)	0.0% (0)
全国大会に参加するため	4.8% (3)	6.3% (1)	0.0% (0)	5.1% (2)	0.0% (0)
最新の情報を得るため	14.5% (9)	18.8% (3)	0.0% (0)	12.8% (5)	50.0% (1)
学会に参加するため	3.2% (2)	12.5% (2)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)
イベントの情報収集のため	4.8% (3)	6.3% (1)	0.0% (0)	2.6% (1)	50.0% (1) _C
なんとなく継続している	27.4% (17)	43.8% (7)	0.0% (0)	25.6% (10)	0.0% (0)
その他	8.1% (5)	18.8% (3)	0.0% (0)	5.1% (2)	0.0% (0)

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A~D)の有意水準:0.05
(注) 無回答は表記しない

め」と回答した割合は、「養成施設」出身の介護福祉士が18.8%であり、「実務経験」の2.6%と比較して有意に高いことが示唆された。一方で、入会理由として「なんとなく継続している」と回答した者も27.4%存在しており、入会への積極的な動機が希薄な層が一定数いることがうかがえた。

③介護福祉士会に以前入会していたが退会した(表5)

介護福祉士会に【以前入会していたが退会した】理由として、「入会のメリットを感じなかった」、「必要性を感じなかった」、「特にメリットがないため」、「更新をするメリットを感じなかった」、「研修会にあまり参加できなかった」、「事業所内で多々研修があるので十分」、「機関紙等を読んでも時間がなく、たまってゆくだけだったから」、「初年度のみで退会した。会費が高く感じた」、「滞納してしまったために退会した」、「覚えていない」、「気づいたら退会していた」、「高齢になった」の12の理由が挙げられた。これらを、類似内容で整理し、退会した理由として【介護福祉士会のメリットや価値の認識不足】、【研修参加の問題】、【情報

過多・負担感】、【経済的理由】、【個人的理由・その他】の5つに分類した。

3. 介護福祉士の労働条件や仕事の悩み(表6-1)

労働条件や仕事の悩みについて【今のところなし】と回答した割合は14.8%であり、介護福祉士

表5 介護福祉士会退会者の理由分類

分類	退会理由
介護福祉士会のメリットや価値の認識不足	必要性を感じなかった。
	特にメリットがないため。
	入会のメリットを感じなかった。
	更新をするメリットを感じなかった。
研修参加の問題	研修会にあまり参加できなかった。
	事業所内で多々研修があるので十分。
情報過多・負担感	機関紙等を読んでも時間がなく、たまってゆくだけだったから。
経済的理由	初年度のみで退会した。会費が高く感じた。
	滞納してしまったために退会した。
個人的理由・その他	高齢になった。
	気づいたら退会していた。
	覚えていない。

表6-1 介護福祉士の労働条件や仕事の悩み(複数回答): 勤務年数

労働条件や仕事の悩み	全体(554)	勤務年数						
		1年未満(26)(A)	1年以上3年未満(58)(B)	3年以上5年未満(53)(C)	5年以上10年未満(155)(D)	10年以上15年未満(103)(E)	15年以上20年未満(87)(F)	20年以上(71)(G)
業務内容について	28.9% (160)	15.4% (4)	27.6% (16)	18.9% (10)	28.4% (44)	24.3% (25)	44.8% (39) _C	31.0% (22)
給料等収入について	47.5% (263)	15.4% (4)	41.4% (24)	54.7% (29) _A	47.7% (74) _A	50.5% (52) _A	49.4% (43) _A	50.7% (36) _A
身体的負担(腰痛や体力に不安がある等)	32.1% (178)	19.2% (5)	25.9% (15)	26.4% (14)	31.6% (49)	30.1% (31)	32.2% (28)	50.7% (36)
健康面の不安(コロナ等の感染症、怪我)	12.6% (70)	7.7% (2)	8.6% (5)	15.1% (8)	15.5% (24)	12.6% (13)	11.5% (10)	11.3% (8)
休憩が取り難い	13.0% (72)	15.4% (4)	13.8% (8)	13.2% (7)	17.4% (27)	13.6% (14)	5.7% (5)	9.9% (7)
有給休暇が取り難い	13.5% (75)	3.8% (1)	5.2% (3)	13.2% (7)	13.5% (21)	13.6% (14)	14.9% (13)	22.5% (16)
就業形態について	9.6% (53)	3.8% (1)	8.6% (5)	5.7% (3)	9.7% (15)	9.7% (10)	12.6% (11)	11.3% (8)
利用者との関係性	7.6% (42)	3.8% (1)	1.7% (1)	7.5% (4)	15.5% (24)	4.9% (5)	5.7% (5)	2.8% (2)
施設職員との関係性	17.7% (98)	15.4% (4)	12.1% (7)	15.1% (8)	16.8% (26)	17.5% (18)	26.4% (23)	16.9% (12)
介護の専門性について	7.6% (42)	0.0% (0)	8.6% (5)	5.7% (3)	8.4% (13)	9.7% (10)	6.9% (6)	7.0% (5)
ICT機器の活用について	8.8% (49)	7.7% (2)	8.6% (5)	11.3% (6)	11.6% (18)	5.8% (6)	9.2% (8)	5.6% (4)
資格取得について	3.2% (18)	0.0% (0)	0.0% (0)	5.7% (3)	4.5% (7)	5.8% (6)	2.3% (2)	0.0% (0)
その他	7.9% (44)	3.8% (1)	5.2% (3)	7.5% (4)	7.1% (11)	9.7% (10)	12.6% (11)	5.6% (4)
今のところなし	14.8% (82)	38.5% (10) _{CD}	24.1% (14)	7.5% (4)	13.5% (21)	13.6% (14)	9.2% (8)	15.5% (11)

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A~G)の有意水準:0.05(注)無回答は表記しない

の85.2%が何らかの労働条件や仕事に関する悩みを抱えていることが明らかになった。また、介護福祉士が抱える主な悩みとして、【給料等収入について】が最も高く47.5%を占め、次いで【身体的負担（腰痛や体力に不安がある等）】が32.1%、【業務内容について】が28.9%であることが示された。

①勤務年数・年齢層からみる労働条件や仕事の悩み(表6-1, 6-2)

「3年以上5年未満」の介護福祉士は【給料等収入】に対する悩みが最も高く54.7%であり、次いで「20年以上」が50.7%、「10年以上15年未満」が50.5%、「15年以上20年未満」が49.4%、「5年以上

表6-2 介護福祉士の労働条件や仕事の悩み(複数回答)：年齢層

労働条件や仕事の悩み	年齢層					
	10代(15) _(A)	20代(67) _(B)	30代(128) _(C)	40代(163) _(D)	50代(129) _(E)	60代(52) _(F)
業務内容について	13.3% (2)	31.3% (21)	33.6% (43) _F	32.5% (53) _F	27.1% (35)	11.5% (6)
給料等収入について	20.0% (3)	49.3% (33)	54.7% (70)	52.8% (86)	41.9% (54)	32.7% (17)
身体的負担(腰痛や体力に不安がある等)	46.7% (7)	31.3% (21)	26.6% (34)	31.3% (51)	31.8% (41)	46.2% (24)
健康面の不安(コロナ等の感染症、怪我)	13.3% (2)	14.9% (10)	10.9% (14)	12.3% (20)	14.0% (18)	11.5% (6)
休憩が取り難い	13.3% (2)	20.9% (14)	11.7% (15)	8.6% (14)	14.7% (19)	15.4% (8)
有給休暇が取り難い	0.0% (0)	14.9% (10)	13.3% (17)	15.3% (25)	12.4% (16)	13.5% (7)
就業形態について	0.0% (0)	10.4% (7)	14.1% (18)	8.6% (14)	9.3% (12)	3.8% (2)
利用者との関係性	6.7% (1)	4.5% (3)	10.2% (13)	4.9% (8)	7.8% (10)	13.5% (7)
施設職員との関係性	20.0% (3)	19.4% (13)	21.1% (27)	17.2% (28)	13.2% (17)	19.2% (10)
介護の専門性について	0.0% (0)	10.4% (7)	7.8% (10)	8.0% (13)	7.8% (10)	3.8% (2)
ICT機器の活用について	6.7% (1)	11.9% (8)	3.9% (5)	7.4% (12)	14.0% (18)	9.6% (5)
資格取得について	0.0% (0)	3.0% (2)	6.3% (8)	2.5% (4)	2.3% (3)	1.9% (1)
その他	6.7% (1)	4.5% (3)	8.6% (11)	11.0% (18)	6.2% (8)	5.8% (3)
今のところなし	33.3% (5)	14.9% (10)	8.6% (11)	14.7% (24)	15.5% (20)	23.1% (12)

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A~F)の有意水準:0.05
(注)無回答は表記しない

表6-3 介護福祉士の労働条件や仕事の悩み(複数回答)：勤務種別

労働条件や仕事の悩み	勤務種別		
	入所型(354) _(A)	通所・訪問型(148) _(B)	その他(58) _(C)
業務内容について	34.8% (123) _{BC}	21.6% (32)	17.2% (10)
給料等収入について	47.9% (169)	44.6% (66)	50.0% (29)
身体的負担(腰痛や体力に不安がある等)	38.8% (137) _{BC}	21.6% (32)	15.5% (9)
健康面の不安(コロナ等の感染症、怪我)	14.4% (51)	11.5% (17)	5.2% (3)
休憩が取り難い	18.1% (64) _{BC}	4.1% (6)	3.4% (2)
有給休暇が取り難い	15.3% (54)	12.2% (18)	5.2% (3)
就業形態について	12.5% (44) _B	5.4% (8)	3.4% (2)
利用者との関係性	8.5% (30)	4.7% (7)	8.6% (5)
施設職員との関係性	18.1% (64)	20.3% (30)	8.6% (5)
介護の専門性について	7.9% (28)	8.1% (12)	3.4% (2)
ICT機器の活用について	10.5% (37)	5.4% (8)	6.9% (4)
資格取得について	2.8% (10)	4.1% (6)	5.2% (3)
その他	9.3% (33)	4.1% (6)	6.9% (4)
今のところなし	11.6% (41)	16.9% (25)	27.6% (16)

列比率の比較(2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。)

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字(A~C)の有意水準:0.05
(注)無回答は表記しない

10年未満」が47.7%と、勤務年数が「3年以上5年未満」から「20年以上」の介護福祉士はいずれも【給料等収入】に対する悩みが一貫して高いことが示された。また、勤務年数が「1年未満」の介護福祉士における同項目の割合は15.4%であり、これらの間に有意な差が確認された。この結果から、

勤務年数が増加するにつれて介護福祉士の【給料等収入】に対する不満が増加していることが明らかになった。また、勤務年数が「1年未満」では、労働条件や仕事に対する悩みが【今のところなし」と回答した割合が38.5%と有意に高いことが示された。【身体的負担】に関する年齢層別の分布では、

表6-4 介護福祉士の労働条件や仕事の悩み（複数回答）：勤務種別（入所型詳細）

労働条件や仕事の悩み	勤務種別		
	入所型（354）		
	介護老人福祉施設（特養）（162） _(A)	介護老人保険施設（121） _(B)	障害者支援施設（71） _(C)
業務内容について	30.2% (49)	38.8% (47)	39.4% (28)
給料等収入について	44.4% (72)	57.9% (70)	39.4% (28)
身体的負担（腰痛や体力に不安がある等）	32.7% (53)	44.6% (54)	42.3% (30)
健康面の不安（コロナ等の感染症、怪我）	13.0% (21)	11.6% (14)	22.5% (16)
休憩が取り難い	15.4% (25)	7.4% (9)	43.7% (31) _{AB}
有給休暇が取り難い	6.8% (11)	23.1% (28) _A	22.5% (16) _A
就業形態について	12.3% (20)	11.6% (14)	14.1% (10)
利用者との関係性	7.4% (12)	5.8% (7)	15.5% (11)
施設職員との関係性	20.4% (33)	17.4% (21)	14.1% (10)
介護の専門性について	4.9% (8)	7.4% (9)	16.9% (12)
ICT機器の活用について	12.3% (20)	5.8% (7)	14.1% (10)
資格取得について	3.1% (5)	1.7% (2)	4.2% (3)
その他	7.4% (12)	11.6% (14)	9.9% (7)
今のところなし	11.7% (19)	12.4% (15)	9.9% (7)

列比率の比較（2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。）

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字（A～C）の有意水準：0.05（注）無回答は表記しない

表6-5 介護福祉士の労働条件や仕事の悩み（複数回答）：資格取得ルート

理由	勤務種別			
	養老施設（126） _(A)	福祉系高校（50） _(B)	実務経験（337） _(C)	その他（13） _(D)
業務内容について	34.1% (43)	34.0% (17)	25.8% (87)	53.8% (7)
給料等収入について	59.5% (75) _C	50.0% (25)	42.7% (144)	46.2% (6)
身体的負担（腰痛や体力に不安がある等）	33.3% (42)	38.0% (19)	32.0% (108)	15.4% (2)
健康面の不安（コロナ等の感染症、怪我）	8.7% (11)	20.0% (10)	13.6% (46)	0.0% (0)
休憩が取り難い	7.9% (10)	22.0% (11) _A	14.5% (49)	0.0% (0)
有給休暇が取り難い	15.1% (19)	16.0% (8)	12.2% (41)	38.5% (5) _C
就業形態について	9.5% (12)	6.0% (3)	10.1% (34)	15.4% (2)
利用者との関係性	7.9% (10)	6.0% (3)	7.7% (26)	0.0% (0)
施設職員との関係性	15.9% (20)	28.0% (14)	16.3% (55)	38.5% (5)
介護の専門性について	7.1% (9)	4.0% (2)	8.3% (28)	0.0% (0)
ICT機器の活用について	4.0% (5)	14.0% (7)	10.1% (34)	15.4% (2)
資格取得について	2.4% (3)	0.0% (0)	3.9% (13)	0.0% (0)
その他	7.9% (10)	6.0% (3)	6.8% (23)	23.1% (3)
今のところなし	9.5% (12)	16.0% (8)	16.0% (54)	7.7% (1)

列比率の比較（2群差の検定。Bonferroniの修正を使用しすべてのペアごとの比較に対して検定を修正。）

各有意確率ペアについて、小さな列比率を持ったカテゴリーのキーをより大きい列比率を持ったカテゴリー内に記載。大文字（A～D）の有意水準：0.05（注）無回答は表記しない

最年少層である「10代」が46.7%、最高年齢層である「60代」が46.2%と共に高い割合を示していることが明らかになった。

②勤務種別・資格取得ルートからみる労働条件や仕事の悩み(表6-3, 6-4, 6-5)

【休憩が取り難い】と感じる割合は、「入所型」が18.1%であり、「通所・訪問型」の4.1%と有意に差が見られた。特に「障害者支援施設」では43.7%の介護福祉士が【休憩が取り難い】と回答しており、他の勤務先種別と比較して有意に高いことが明らかであった。

また、「介護老人保健施設」23.1%や「障害者支援施設」22.5%は、「介護老人福祉施設」6.8%と比較して【有給休暇が取り難い】と感じる割合が高いことが示された。

【身体的負担】に関する悩みについても、「入所型」に勤務する介護福祉士では38.8%、「通所・訪問型」では21.6%と有意な差が確認された。

さらに、「養成施設」で資格を取得した介護福祉士の【給料等収入】に対する悩みは59.5%と最も高く、「実務経験」の42.7%と比較して有意に高いことが示された。この結果は、介護福祉士の養成教育と実際の収入の不均衡が、収入に対する不満を一層顕著にしている可能性を示唆していると考えられる。

また、【休憩が取り難い】と感じる割合においては、「福祉系高校」が22.0%と最も高く、「養成施設」の7.9%との差異が顕著であった。

IV | 考察

1. 介護福祉士会への入会状況と課題の分析

①介護福祉士会の認知不足と若年層へのアプローチ課題

介護福祉士会に【入会していない】および【退会した】介護福祉士が全体の8割を超え、特に若年層において認知不足が示唆された。特に「20代」および「30代」の介護福祉士の91.0%が入会しておらず、若年層の介護福祉士会への関心が著しく低い実態が示唆された。この背景には、「介護福祉士会を知らない」、「入会のメリットを感じな

い」、「介護福祉士会の事業活動が分からない」など、介護福祉士会に対する認知不足が影響していると考えられる。これにより、現行の広報活動や情報発信が若年層に十分に届いていない現状が浮き彫りとなった。

また、資格取得ルート別にみると、「福祉系高校」で資格を取得した介護福祉士の入会率が最も低く、【入会していない】割合が96.0%と極めて高いことが確認された。このことから、「福祉系高校」の在學生や卒業生に対する啓発活動が不十分であり、特別な広報施策が必要であることが示唆している。特に、介護福祉士会の役割や入会メリットを強調し、日本介護福祉士会が提供する入会金や初年度年会費の免除制度(日本介護福祉士会2024)や各都道府県の初年度入会特典を周知することは、入会促進に寄与すると考えられる。

現在、A県介護福祉士会の広報活動は、福祉施設や事業所、福祉系高校や養成施設への周知、および研修参加者への広報が中心であり、若年層への接触機会が限られていることが課題として挙げられる。また、山内ら(山内ら2012)は「50代の非入会率が最も高い」と報告しており、本調査結果とは異なる傾向が示されたが、この差異は都道府県ごとの広報活動や若年層へのアプローチ方法の違いによるものと推測される。例えば、大阪介護福祉士会では、YouTubeやSNSを活用し、福祉の仕事に関する体験レポートを配信するなど、若年層への広報活動を積極的に展開している。また、山口県介護福祉士会では、臨床ケアや介護に関する独自の研究会を定期的に開催し、介護研究の実践発表を通じて会の活動をアピールしている。各都道府県の介護福祉士会が試行錯誤を重ね、独自の広報活動や取り組みを実践しており、これらの成功事例を精査し全国的に共有・活用することが効果的な施策と考える。

さらに、厚生労働省が推進する「介護のしごと魅力発信事業」は、「若年層」、「ミドル層」、「アクティブシニア層」のターゲット層に応じた情報発信を行い、介護分野への多様な人材の参入と定着を目的としている。介護職として定着した人材には、職能団体である介護福祉士会がその役割を

シームレスに引き継ぎ、支援を続けることが重要であると考え。

②ベテラン介護福祉士への支援体制と入会メリットの再評価

介護福祉士会に【入会している】介護福祉士の年代別分析では、「60代以上」の入会率が最も高く、勤務年数別では「20年以上」の層が多いことが示された。また、入会の主な理由として、「介護福祉士としてのスキルアップ」や「有意義な研修への期待」といった自己成長や研修機会への期待が挙げられている。しかし、勤務年数「20年以上」の介護福祉士のうち、「入会のメリットを感じない」と回答した割合が50.0%に達しており、現行の介護福祉士会の事業がベテラン層のニーズに対応しきれていないことを示唆している。長年の経験を積んだ介護福祉士にとって、基礎的な研修やネットワーキングでは満足感が得られず、「入会のメリット」を見出しにくい状況が生じていると推察される。

現在、A県介護福祉士会が提供するキャリア形成に関する研修の対象は、概ね5年程度以上の経験年数を対象とするもので終了しており、この傾向は他の都道府県介護福祉士会においても同様であり、継続的なキャリア支援や学習機会の提供が不十分であると言える。

一方、日本看護協会では看護職の生涯学習を支える「看護職の生涯学習ガイドライン」を策定し、施設や都道府県看護協会と連携した研修提供体制を整備している。また、牛田(牛田2021:33-63)は「介護福祉士のキャリア形成に資する研修の抜本的見直し」を提言しており、こうした先行事例に基づき、介護福祉士会においても専門職としての生涯学習支援体制の整備が求められる。特に勤務年数が「20年以上」のベテラン層を対象とした生涯学習およびキャリア支援体制の強化が急務であると考えられる。このような取り組みを通じて、ベテラン介護福祉士に対して入会のメリットが明確に認識され、入会ニーズに応えられる体制が期待される。

③退会の要因分析と介護福祉士会の価値向上の取り組み

介護福祉士会を退会した理由として、「入会のメリットを感じなかった」、「必要性を感じなかった」、「特にメリットがないため」、「更新をするメリットを感じなかった」という【介護福祉士会のメリットや価値の認識不足】が挙げられた。これらは、介護福祉士会のサービスや活動が、会員に対して十分な付加価値を提供できていない、またはその価値が伝わっていないことを示唆している。また、「研修会にあまり参加できなかった」、「事業所内で多々研修があるので十分」といった【研修参加の問題】も指摘され、介護福祉士会が提供する研修プログラムが会員のニーズに対応しきれていない可能性が考えられる。特に、事業所内での研修が強化されている現状を考慮すると、介護福祉士会が提供する研修には、事業所では得られない高度な専門性や会員特権としての付加価値を持たせる必要がある。さらに、「機関紙等を読んでも時間がなく、たまってゆくだけだったから」などの【情報過多・負担感】も挙げられ、一部の自由記述において、情報提供の形式や量が会員のニーズと十分に一致していない可能性が示唆された。介護福祉士には多様な年齢層が存在することから、紙媒体のレターに加えてデジタル形式を併用することは有効である。日本介護福祉士会では、X(旧Twitter)やFacebookなどのSNSも導入し、複数の手段を組み合わせた情報発信体制が整備されている。そのうえで、今後は、日本介護福祉士会ニュース「Rashiku」の抜粋や主要トピックを音声配信の形で現場に届けるなど、介護福祉士が自ら能動的にアクセスしなくとも、勤務中のひと時に共有的に聴取できる仕組み、いわばラジオ番組のような形式を整備することも、多様な情報提供のあり方として有用であると考え。

また、【経済的理由】として「初年度のみで退会した」、「会費が高く感じた」、「滞納してしまったために退会した」との意見もあり、経済的負担が一因であることも示唆された。石川ら(石川ら2021:51-63)は、「介護福祉士会の会費が他の職能団体と比較して高額であると感じているケースがある」と指摘している。A県介護福祉士会では、初年度の入会金は免除され、合計費用は全国平均

よりも低めではあるものの、経済的負担の軽減のために継続年数に応じた割引や特約制度、また柔軟な支払い方法の検討も求められる。加えて、「高齢になった」、「退会の理由を覚えていない」、「気づいたら退会していた」という【個人的理由・その他】から、会員と介護福祉士会との接点が不足していることが伺える。会員との定期的な接触機会を確保し、双方向のコミュニケーションを図ることは今後の重要な課題であると考えられる。また、高齢会員向けのサポート体制や退職後のネットワークの維持に対する取り組みも必要であると考えられる。

④教育課程における職能団体の認知と連携の重要性

介護福祉士会に【入会していない理由】として「介護福祉士会を知らない」と回答する割合が最も多く、山内ら（山内ら2011）が指摘した「知名度の低さ」が依然として解決されていないことが示唆された。また、勤務年数別にみると、「勤務年数が短い」ほど介護福祉士会の認知度が低く、特に「福祉系高校」の介護福祉士の約6割、さらに「養成施設」の約4割が介護福祉士会の存在を知らないと回答しており、これらが入会率の低さに影響している一因とも考えられる。この結果は、福祉系高校や養成校で「日本介護福祉士会倫理綱領」や「日本介護福祉士会倫理基準（行動規範）」を学んでいるにもかかわらず、職能団体としての介護福祉士会の認知が不十分であるという教育的課題を浮き彫りにしている。介護福祉士の養成過程において、職能団体の意義や役割に関する理解が不足している現状を踏まえ、教育機関と介護福祉士会の連携強化が必要である。具体的には、学生に対して職業倫理や倫理綱領に加え、職能団体の役割やメリットを具体的に伝えるワークショップやセミナーを、教育機関と共同で開催することが有効と考えられる。こうした取り組みによって、介護福祉士を目指す学生が職能団体としての介護福祉士会の重要性を理解し、入会を検討する契機を提供できることが期待される。

2. 労働条件と待遇向上の課題

調査結果から、介護福祉士の85.2%が「労働条件や仕事に関する悩み」を抱えており、労働環境の改善が喫緊の課題であると考えられる。特に【給与等収入】、【身体的負担】、【休憩が取り難い】および【有給休暇が取り難い】に関する整備が求められる。

①【給与等収入】に関する課題

【給与等収入】に関する不満は、勤務年数の増大とともに増大し、「3年以上5年未満」の介護福祉士が最も高い不満を抱き、その後も高い水準で推移していることが明らかとなった。これは、勤務年数やスキルが昇給や待遇に十分に反映されていない可能性を示唆している。また、介護福祉士が自己の成長や経験に見合った報酬を得られていない現状は、給与評価制度が不十分であることを示していると考えられる。さらに、資格取得ルートによる不満の差異も明確であり、「養成施設」で資格を取得した介護福祉士は、「実務経験」取得者と比較して高い不満を抱いている傾向が確認された。青木ら（青木ら2019：27-42）が指摘するように、「養成施設」の介護福祉士が高度な専門知識と倫理意識を備えているにもかかわらず、期待に見合う報酬や評価が得られていないことが不満の一因であると推測される。こうした不満を解消するためには、スキルや勤務年数に応じた公正かつ透明性のある評価システムの導入が必要である。特に「養成施設」の介護福祉士に対しては、その専門性を正當に評価する仕組みが整備されていない現状が、さらなる不満を助長している可能性が高いと考えられる。したがって、介護福祉士会は職能団体として、公正な評価制度や昇給制度の見直しに積極的に関与し、介護福祉士の専門スキルや経験が適切に報酬へ反映されるよう支援体制を整えることが求められる。このような職能団体に関与する統一的な評価システムの導入により、介護福祉士の評価と給与の向上、さらにはキャリア形成を促進し、介護福祉士が職務に専念できる環境の整備が介護現場全体の質向上に寄与すると考えられる。

②【身体的負担】に関する課題

特に「入所型」施設に勤務する介護福祉士において【身体的負担】が大きな課題であることが明

らかとなった。この傾向は、公益財団法人介護労働安定センター(2024)の「令和5年度介護労働実態調査」の結果とも一致しており、「介護現場における人手不足や過重労働」が【身体的負担】として介護福祉士に影響を及ぼしていると推測される。さらに、年齢層別にみると、特に「10代」と「60代」の年齢層で【身体的負担】が高いことが示された。この結果は、それぞれの年齢層が持つ特有の状況に由来していると考えられる。「10代」の介護福祉士は経験が浅く、養成教育で学んだ支援技術を現場で十分に活用できていないため【身体的負担】が大きくなる傾向が考えられる。一方、「60代」の介護福祉士は、豊富な経験と技術を有しているものの、オリジナリティーに偏重している傾向や、加齢に伴う体力の低下なども考えられる。また、勤務年数が「20年以上」の介護福祉士の半数以上が【身体的負担】を感じており、勤務年数が長くなるほど負担が増加することが明らかとなった。この結果から、介護福祉士の【身体的負担】は、経験年数や年齢、現場環境の影響が複合的に作用していると考えられる。これらの課題に対し、介護福祉士の養成教育では、現場環境の現状を踏まえた身体負担軽減に関する実践的教育の強化が必要であると考えられる。特に、人手不足が続く現場では、身体的負担を軽減する高度な支援技術が求められ、養成段階からその内容を充実させることが重要であると考えられる。また、生涯学習としての研修機会を増やし、ベテラン層に向けた負担軽減の新たな技術や、アシスト機器の活用に関するトレーニングを提供することも有効であると考えられる。介護現場と乖離を防ぎ、最新の現場環境に対応する支援技術の研究を教育機関と介護福祉士会が共同で進め、それを介護福祉士に向けて継続的に発信していくことが求められる。

③【休憩が取り難い】および【有給休暇が取り難い】に関する課題

特に「入所型」施設に勤務する介護福祉士が【休憩が取り難い】や【有給休暇が取り難い】を感じる割合が高く、特に「障害者支援施設」においてその傾向が顕著であることから、労働環境の改善が急務であると考えられる。公益財団法人介護労働安定

センター(2024)の「令和5年度介護労働実態調査」でも、介護職員の労働環境に深刻な影響を及ぼす「人手不足」の問題が指摘されており、これが休憩・有給休暇取得困難の一因と推測される。さらに、「福祉系高校」の介護福祉士が特に【休憩が取り難い】と感じている点は、教育機関における労働条件や労働権利に対する教育が不十分である可能性が示唆される。養成教育の段階から、労働者としての労働権利や権利意識を適切に教育することで、労働環境改善への意識が高まり、労働者としての休憩や有給休暇を取得する権利、およびその意義が認識されるようになると考えられる。尾形ら(尾形ら2018:255-262)が指摘するように、「管理者による労働条件への配慮も不可欠」である一方で、介護福祉士自身が権利を理解し、主張できるような権利教育も重要であると考えられる。また、職場全体での休暇取得を奨励する取り組みに加え、介護福祉士会が標準化されたガイドラインを策定し、それを施設が導入することで、職員が安心して休憩を確保し、働ける環境を整備することが求められる。さらに、労働環境改善に向けた管理者と労働者双方の研修の実施や、介護福祉士会と公益財団法人介護労働安定センター等との連携強化が有用であると考えられる。

V | 結論

本研究では、A県の介護福祉士を対象とした調査を通じ、介護福祉士会の現状や役割、課題について多角的に分析し、今後の介護福祉士会のあり方を検討した。その結果、以下の知見が得られた。

1. 介護福祉士会の低い入会率と認知不足

特に若年層や「福祉系高校」出身の介護福祉士において、介護福祉士会の認知が不十分であることが明らかとなった。このため、教育機関との連携強化により、職能団体としての意義や役割を周知し、広報および啓発活動の一層の推進が必要である。

2. 入会メリットの認知不足と支援内容の改善の必要性

ベテラン層を含む多くの介護福祉士が入会メリットを実感できていない現状が示された。特に、キャリア形成支援や高度な専門研修の提供が求められており、生涯にわたる学習支援の整備が必要である。

3. 介護福祉士の労働条件に関する課題

介護福祉士の大多数が待遇に関する悩みを抱えており、給与評価や身体的負担の軽減、休憩・有給取得の改善が重要課題である。職能団体として、介護福祉士が公正に評価され、働きやすい環境を構築する支援が求められる。

4. 休憩および有給休暇取得に関する課題と教育の重要性

労働者の権利に関する啓発不足が、介護福祉士自身の権利意識や環境改善への意識の欠如につながっている可能性が示唆され、教育段階から権利意識の涵養^{かんよう}が求められる。介護福祉士会による標準化されたガイドラインの策定および現場への導入も重要である。

以上の結果を踏まえ、介護福祉士会は、介護福祉士の専門性向上と労働環境の改善に資するため、広報戦略の強化、キャリア支援の充実、評価システムの見直し、および教育機関との連携の強化といった多面的な施策を講じることが喫緊の課題であると結論づけられる。今後も介護福祉士の地位向上と安心して働ける環境の整備に注力し、職能団体である介護福祉士会との協力を強化することで、介護福祉士がその専門性を最大限に発揮できる職業基盤の構築に努めることが、私たちの重要な使命であると考えられる。

謝辞

本研究の調査にあたり、ご協力頂きました介護福祉士の皆様と、A県介護福祉士会理事の皆様にご心より感謝申し上げます。

付記：本稿は、第21回日本介護学会および第32回日本介護福祉学会大会での口頭発表内容をブラッシュアップし、新たな考察を加えたものである。

(注)

- 1) 公益社団法人日本介護福祉士会における情報公開された事業報告「令和5年度事業報告」は、令和6年度3月末日現在の日本介護福祉士会会員数であるため、公益財団法人社会福祉振興・試験センター出典による令和6年度3月末日現在の資格登録者数の状況を提示した。尚、公益財団法人社会福祉振興・試験センター出典による令和6年度6月末日現在の介護福祉士の資格登録者数は2,000,328人である。
- 2) 令和6年度6月末日現在のA県における介護福祉士の資格登録者数は25,985人である。

◎ 引用・参考文献

青木宏昌, 杉澤秀博, 青木宏心, 2019,「高齢者介護施設に勤務する介護福祉士養成大学卒業者の介護福祉士としてのキャリア継続要因」『老年学雑誌』10: 27-42.

本間美幸, 八巻貴穂, 佐藤郁子, 2010,「介護福祉士の専門性に関する研究～北海道介護福祉士会会員の意識調査結果から(第1報)～」『人間福祉研究』13: 131-144.

石川高司, 井之上尚美, 岡村友美, 山元優子, 高橋信行, 2021,「職能団体である介護福祉士会の入会率の低さに関する一考察 ―アンケート調査から理由を探る―」『地域総合研究』49(1): 51-63.

伊藤明子, 2024,「施設介護職員の肯定的側面に影響する要因-有能感と満足感の関係性に着目して-」『介護福祉教育』No55, 28(2): 22-30.

河内康文, 2022,「介護職員の職場外・職場内研修への

参加と成長実感の関連」『厚生の指標』69(8): 32-38.

公益社団法人日本介護福祉士会, 2023,「令和5年度調査研究事業」, (2024年4月1日・2024年7月20日取得, <https://www.jaccw.or.jp/projects/chousakenkyu/r05>)

公益財団法人日本看護協会, 2021,「年齢別会員数の推移」, (2024年10月11日取得, <https://www.nurse.or.jp/nursing/promote/situation/>)

公益財団法人日本看護協会, 2024,「日本看護協会が提供する研修」, (2024年10月11日取得, <https://www.nurse.or.jp/nursing/training/search/index.html>)

公益財団法人社会福祉振興・試験センター, 2024,「資格登録(社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士), 登録者数の状況」, (2024年4月1日・2024年7月20日取得, <https://www.sssc.or.jp/touroku/tourokusya.html>)

公益財団法人介護労働安定センター, 2024,「令和5年度『介

「介護労働実態調査」結果の概要について」, (2024年7月20日取得, https://www.kaigo-center.or.jp/content/files/report/2023_jittai_chousagaiyou.pdf)

公益社団法人 大阪介護福祉士会, (2024年4月1日・2024年7月20日取得, <http://kaigo-osaka.jp/>)

一般社団法人 栃木県介護福祉士会, (2024年4月1日・2024年7月20日取得, <https://tochigi-careworker.com/>)

一般社団法人 栃木県介護福祉士会, 2024, 「令和6年総会報告書」資料.

厚生労働省老健局, 2023, 「介護人材の処遇改善等(介護人材の確保と介護現場の生産性の向上)」, 第223回社会保障審議会介護給付費分科会(web会議)資料, (2024年7月20日取得, <https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001144293.pdf>)

厚生労働省, 2023, 「令和5年度介護のしごと魅力発信等事業について」, (2024年10月20日取得, https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_41110.html)

一般社団法人 山口県介護福祉士会, (2024年4月1日・2024年7月20日取得, <https://www.yamaguchi-kaigo.jp/>)

新田恵美, 大島仁美, 2023, 「介護福祉士のニーズから見た介護福祉会の役割に対する検討-栃木県内の介護福祉士に向けた意識調査から-」『第21回日本介護学会』: 96-97.

新田恵美, 大島仁美, 2024, 「介護福祉士のニーズから見た介護福祉会の役割に対する検討(第2報)-入会状況・仕事の悩みと勤務年数・勤務先種別との関係性に関する考察-」『第32回日本介護福祉学会大会』: 113.

尾形明美, 會田信子, 小木曾加奈子, 2018, 「介護老人福祉施設の看護職員と介護職員が考える人材定着に必要な職場環境の要素」『日本看護科学会誌』38: 255-262.

岡田史, 2010, 「介護福祉専門職育成における専門職団体の役割と課題 ~新潟県介護福祉士会会員の研修ニーズに関する意識調査から~」『新潟医福誌』10(2): 4-9.

料所奈津子, 2014, 「介護職員の職務満足とその向上の取

り組みに関する文献的考察」『人間関係学研究』16: 117-128.

坂本毅哲, 2023, 「福祉専門職養成教育におけるICT活用がもたらす可能性と検討すべき課題」『介護福祉学』30(1): 51-59.

曹瑞芳, 高井逸史, 2024, 「中小高齢者介護施設における介護ロボット導入の現状と課題アンケート調査より」『大阪経大論集』75(1): 99-119.

牛田篤, 2021, 「日本介護福祉士の示す介護福祉士の専門性及び生涯研修体系に関する研修教材の課題—文献検討による介護人材のリーダー的な介護福祉士のキャリア形成の構築に向けて—」『同朋福祉』(28): 33-63.

山下貴子, 山崎佳代, 2022, 「介護の品質とリスクマネジメント—利用者満足向上と働きやすい職場環境の両立にむけて—」『日本マーケティング学会マーケティングレビュー』3(1): 62-70.

山内朱美, 伏谷昇造, 藤田大介, 三吉智美, 田村真智子, 2011, 「介護福祉領域における職能団体についての意識—山口県美祿市介護福祉士へのアンケート調査から—」『一般社団法人山口県介護福祉士会 介護研修セミナー研究発表会』.

山内朱美, 伏谷昇造, 藤田大介, 三吉智美, 田村真智子, 2012, 「介護福祉領域における職能団体についての意識(2)—山口県介護福祉士会会員へのアンケート調査から—」『一般社団法人山口県介護福祉士会 介護研修セミナー研究発表会』.

八木裕子, 2018, 「未来を担う介護人材育成と定着」『ふれあいケア』24(4): 11-14.

渡辺裕美, 2022, 「四年制介護福祉士養成大学における人材育成と学びの価値-公表されているデータ分析と文献レビュー-」『ライフデザイン学研究』18: 223-242.

中島紀恵子, 2021, 「ケアの倫理: 認知症のケアの学び返しの旅から」『クオリティケア』2021.